

松木光子(編). (2011). 看護学概論 [第5版] -看護とは・看護学とは-. ヌーヴェルヒロカワ.

島崎玲子, 岡崎寿美子, 小山敦代(編). (2009). 看護学概論第2版看護追求へのアプローチ. 医歯薬出版.

Q: 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割

加藤伸司(編). (2010). 介護福祉士養成テキストブック 発達と老化の理解. ミネルヴァ書房.

川村佐和子, 志自岐康子, 松尾ミヨ子(2006). ナーシング・グラフィカ 16 基礎看護学-看護学概論. メディカ出版.

国際看護研究会(編). (1999). 国際看護学入門. 医学書院.

丸井英二, 森口育子(編). (2005). 国際保健・看護. 弘文堂.

増田雅暢, 島田美喜(2008). ナーシング・グラフィカ 9 健康支援と社会保障-社会福祉と社会保障. メディカ出版.

宮崎徳子, 立石宏昭(編). (2010). 保健・医療・福祉ネットワークのすすめ. ミネルヴァ書房.

野村陽子(編). (2011). 最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論. メヂカルフレンド社.
田村誠(2004). 保健医療福祉システム入門. 医学書院.

奥原秀盛(2007). 現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題. 佐藤登美(編), 看護学概論(pp. 285 -313). メジカルフレンド社.

V群: 専門職者として研鑽し続ける基本的能力

R, S: 継続的な学習、看護の質の改善に向けた活動

Evidenced-Based Nursing 誌(編). (2000-2006/2008). 八重ゆかり, 海野康子(訳), EBN ユーザーズ・ガイド-そのエビデンスを役立てるために. 中山書店.

グレッグ美鈴, 池西悦子(編). (2012). 看護教育学. 南江堂.

松木光子(編). (2011). 看護学概論 看護とは・看護学とは. ヌーヴェルヒロカワ.

表 V-1. 看護師に求められる実践能力の「卒業時の到達目標」の達成に「必要な知識の整理」

実践能力	構成要素	卒業時の到達目標*	看護にとって必要な知識	必要な知識の内容															
				生命維持のための構造と機能	呼吸するための構造と機能	食べるための構造と機能	排泄するための構造と機能	眠るための構造と機能	移動するための構造と機能	生産的な活動をするための構造と機能	身体を清潔を保つための構造と機能	意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるための構造と機能	内部環境の恒常性	自律神経	人間と欲求**	遺伝子と遺伝子情報	止血機構	血液型	細胞・組織・器官
I群 ヒューマンケアの基本的な能力	A 対象の理解	1 人体の構造と機能について理解する	日常生活行動が可能となる人体の構造と機能	生命維持のための構造と機能	内部環境の恒常性	自律神経	人間と欲求**	遺伝子と遺伝子情報	止血機構	血液型	細胞・組織・器官	細胞の障害	細胞の障害の修復・再生・適応	基本的な病変とその機序	健康状態を脅かす微生物				
				呼吸するための構造と機能	肺の構造	肺の機能	気道の構造	気道の機能	心血管系の構造と機能	ガス交換	組織呼吸	呼吸中枢	体位と呼吸						
				食べるための構造と機能	消化器の構造	消化器の機能	摂食・嚥下のメカニズム	消化・吸収のメカニズム	栄養素	食欲中枢	味覚・嗅覚・触覚								
				排泄するための構造と機能	消化器の構造	消化器の機能	泌尿器の構造	泌尿器の機能	尿の性状・成分	便の性状・成分	排尿のメカニズム	排便のメカニズム	姿勢による排泄への影響	食習慣による排泄への影響	消化吸収と栄養素				
				眠るための構造と機能	中枢神経の構造	意識と睡眠のメカニズム	睡眠周期とレベル	神経伝達物質	環境の影響	睡眠中の生理機能の変化	ホルモンバランスと睡眠	体内時計と睡眠	生活リズム	休息					
				移動するための構造と機能	骨・筋系の構造	骨・筋系の機能	神経細胞・神経組織	中枢神経系	末梢神経系(体性神経)	関節の構造	関節の機能	ボディメカニクス	運動の効果	活動耐性に影響する因子	生活姿勢と抗重力メカニズム	活動と休息のバランス			
				生産的な活動をするための構造と機能	心臓の構造	心臓の機能	血管系の構造	血管系の機能	リンパ系の構造	リンパ系の機能	視覚	聴覚	平衡覚	内臓感覚	エネルギー代謝	生活動作負荷と血圧、脈拍の変動			
					ホルモンの種類、ホルモンの分泌の調整、内分泌器官の構造とホルモンの種類		種の保存(受精～成長)												
身体を清潔を保つための構造と機能	血液免疫系の構造	血液免疫系の機能	皮膚の構造	皮膚・粘膜の機能	ボディイメージ	皮膚感覚閾値													
意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるための構造と機能	こころの構造と機能(働き)	脳の基本構造と仕組み、働き	精神の機能	神経細胞と神経伝達の仕組み	言葉を話す	記憶する													

*「卒業時の到達目標」は、厚生労働省(2011)「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書の「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(案)」を用いている。

**「必要な知識の内容」の太字は、国家試験出題基準から追加した項目である。

I群 ヒューマン ケアの基本 的な能力	D 援助的 関係の形成 (続き)	13 対人技法を用いて、対象者と援助的なコミュニケーションをとる	対人技法	観察	面接技法	共感	受容													
		援助的コミュニケーション	コミュニケーションの概念	コミュニケーション技法	対象者(認知能力・健康課題を含む)のアセスメント	対象者の認知能力、健康課題に応じたコミュニケーション	家族のアセスメント	家族のアセスメントに基づくコミュニケーション												
		14 対象者に必要な情報を対象者に合わせた方法で提供する	必要な情報の選択とその提供方法	情報	対象者に必要な情報の選択	対象者に合わせた情報提供の方法														
		情報の取り扱い	情報を取り扱う際の倫理	情報のマネジメント																
		15 対象者からの質問・要請に誠実に対応する	対象者からの質問・要請に対する誠実な対応	傾聴	誠実な態度	状況判断	チームでの連携・協力													
II群 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	E アセスメント	16 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集する	健康の概念	健康の定義	健康レベル	健康を阻害する因子														
		情報収集の視点	情報	看護理論(看護、生活、健康、環境、人間等の捉え方を含む)	主観的情報(自覚症状、感情表現、対象の考え方や価値観、期待)	客観的情報	日常生活自立度	国際生活機能分類(ICF)	ADL/IADL	QOL	ヘルスヒストリー	アセスメントガイド	診断基準							
		目的を持った情報収集	情報収集	面接技法(問診)	感覚器を通じた観察	身体診査	情報収集の方法(頭尾法、身体系統別、患者ニード)	医療器具の扱い方	コミュニケーション	情報源(重要関係者、ヘルスケアチーム、診療録)										
		情報の整理分析・解釈	情報の活用	情報の倫理的な取扱い方法	情報の吟味	情報分析	情報の解釈	リフレクション	意思決定	批判的思考	分析的思考	論理的思考								
		17 情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出する	呼吸することのアセスメント	食べることのアセスメント	排泄することのアセスメント	眠ることのアセスメント	移動することのアセスメント	生産的な活動をするのアセスメント	身体を清潔に保つことのアセスメント	意志や感情を表現する/信念を守る/人と関わることのアセスメント	次世代を育成することのアセスメント									
分析・解釈の統合	問題解決の過程	全人的解釈	情報同志の関連性	部分と全体的な見方	全体論的な見方	関連図														
看護上の問題(課題)の明確化 優先順位の決定 目標の設定	優先順位の付け方	看護上の問題(課題)の明確化	看護上の目標の立て方	目標の共有	短期目標	長期目標	看護上の目標の種類	目標達成型志向												

			生活者の生涯各期における特徴と健康課題	健康の定義	健康観	ヘルスプロモーション	ウェルネス	QOL	健康に関する指標	人口動態	健康状態と受療状況	生活行動・習慣	労働と健康	各期の健康課題	家族のサイクル	
I 健康の保持・増進、疾病の予防	27 生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を理解する	生活者の生涯各期における特徴と健康課題	生活習慣病	ストレスと病気	疾病の原因	生体の回復	予防接種									
		健康生活を支える予防活動	予防の概念	健康の保持増進	疾病予防	社会との関係性の中での健康づくり		セルフケア	介護予防							
		予防活動における看護の役割	健康教育	健康相談												
		28 環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解する	環境の変化による健康生活への影響と予防策	環境	ストレスとコーピング	ストレスマネジメント	防衛機能の低下	免疫反応	有害物質	労働災害	安全管理	療養環境が及ぼす影響				
	29 健康増進と健康教育のために必要な資源を理解する	健康増進と健康教育のために必要な資源	公衆衛生システム	根拠が証明された健康支援プログラム	健康づくりに有用な根拠ある情報	健康づくりを支える各種機関（保健所など）	健康づくりを支える人的資源（保健師・看護師など）	健康づくりを支えるチームアプローチ（保健・医療・福祉）	健康づくりを支えるセルフヘルプグループ	健康づくりを支える地域組織	健康診断					
	30 対象者及び家族に合わせた必要な保健指導を実施する	対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導	保健指導	家族アセスメントモデル	カウンセリングマインド	動機づけ	コーチング	説明力	コミュニケーション技術	学習支援						
II 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	31 妊娠、出産、育児に関わる援助の方法を理解する	妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助	妊娠、出産、育児	受胎調節法	妊娠期の生活	妊娠・分娩・産褥の経過と看護	安全・安楽な分娩への看護	新生児看護	妊婦の保健指導	育児技術	母乳保育	ワーク・ライフ・バランス	児童虐待予防			
	32 急激な変化状態（周手術期や急激な病状の変化、救命処置を必要としている等）にある人の病態と治療について理解する	心身に急激な変化をもたらす原因	妊娠・分娩・産褥の異常	胎児・新生児の異常	アナフィラキシーショック	麻酔	手術	感染症	外傷	事故（医療事故を含む）	中毒（薬物中毒、食中毒）					
		災害	呼吸・循環障害	代謝障害	脳機能障害	出血	消化管出血	慢性疾患の急性増悪	誤嚥・窒息							
	J 急激な健康状態の変化にある対象への看護（続き）	心身に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応	生体の防衛機制	麻酔の身体に及ぼす作用	解剖生理	代理意思決定	ショック状態（外傷性ショックを含む）	多臓器不全	DIC	脳死状態	挫滅症候群	侵襲がもたらす心理面への影響	機能不全			
		SIRS（全身炎症症候群）	生体侵襲理論	予備力/免疫力の低下												
	心身に急激な変化をもたらされた対象者に対して必要な治療・看護	フィジカルアセスメント	意識レベルの観察	輸液管理	疼痛コントロール	救急救命措置	救急看護	トリアージ	AEDと心肺蘇生	低体温療法						
チームアプローチ		薬物療法	隔離・拘束・行動制限・抑制	呼吸・循環管理	合併症・二次障害予防のための援助	安全の確保	酸素療法	手術療法	輸血	心肺蘇生						

<p>Ⅲ群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力</p>	<p>K 慢性的な変化にある対象者への看護（続き）</p>	<p>40 慢性的経過をたどる人の病態と治療について理解する</p>	慢性疾患の特徴・疾患の種類と経過・症状	慢性疾患の定義	慢性病のタイプ	事故・災害による健康障害	職場環境による健康障害（職業性疾患）	難病	慢性性	病みの軌跡モデル	呼吸機能障害と症状（慢性期）	循環機能障害と症状（慢性期）	栄養摂取・代謝障害と症状（慢性期）	内部環境調節障害と症状（慢性期）	生体防御機能の障害と症状（慢性期）		
			各種の治療法についての知識	手術療法とその適応	インスリン療法とその適応	人工臓器とその適応	ペースメーカーとその適応	ステロイド治療とその適応	インターフェロンとその適応	化学療法とその適応	放射線治療とその適応	物理療法とその適応	外用療法とその適応	点眼療法とその適応	吸入療法とその適応		
			各種の治療法に関する作用と有害事象	手術療法における急性・慢性の合併症	インスリン療法における急性・慢性合併症	人工臓器における急性・慢性合併症	ペースメーカーにおける急性・慢性合併症	ステロイド治療における急性・慢性合併症	インターフェロンにおける急性・慢性合併症	化学療法における早期・晩期の合併症	放射線治療における早期・晩期の合併症	外用療法における作用と副作用	点眼療法における作用と副作用	吸入療法における作用と副作用			
		41 慢性的経過をたどる人に治療が及ぼす影響について理解する	療養生活の特徴と治療が及ぼす影響	療養生活	各発達段階（乳幼児、小児、青年期、成人期、老年期）における療養生活の特徴	QOL											
		42 対象者及び家族が健康障害を受容していく過程を支援する	障害の受容過程と心理的援助	喪失体験	悲嘆のプロセス	障害	障害の受容過程	ボディイメージとセクシャリティの変化	危機モデル	自尊感情の低下	中途障がい	心身障害					
		43 必要な治療計画を生活の中に取り入れられるよう支援する（患者教育）	療養生活をおくる対象者の環境調整	患者教育	エンパワメント	セルフマネジメントモデル	症状マネジメント	セルフモニタリング	教育的支援（相談技術、行動療法など）	環境調整	ナラティブアプローチ						
		44 必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解する	ケースマネジメント	ケースマネジメント	チームケア	移行期ケア	退院支援とチーム連携										
			ソーシャルサポート	社会資源	社会資源の活用（サポートグループ、セルフヘルプグループなど）	保健・医療・副市制度											

IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	N 看護チームにおける委譲と責務(続き)	53 看護師が委任した仕事について様々な側面から他者を支援することを理解する	委任する場合の他者への支援	エンパワメント	コーチング	委任した仕事に関するマネジメント	委任した仕事の結果の確認	職種間の連携・協働											
		54 仕事を部分的に他者に委任する場合においても、自らに説明義務や責任があることを理解する	委任する場合の説明責任(説明責任(アカウントビリティ))	説明責任(アカウントビリティ)	看護師の果たす責任	契約関係													
	55 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解する	医療安全	医療事故等の定義・分類	医療事故の構造	患者の安全	医療提供者の安全	安全文化	ノンテクニカルスキル	ヒューマンファクター	システムファクター	エラーからの学習	チーム連携							
		安全な環境での療養生活の保証	対象のリスク特性	安全な環境を保証する方法	療養棟環境の整備と行動制限														
	0 安全なケア環境の確保	安全を脅かすリスク	職場風土	療養環境	ヒューマンエラー	看護業務上のリスク	災害	医原病											
		56 リスク・マネジメントの方法について理解する	リスクマネジメント・セーフティマネジメント	情報管理	安全管理責任者(リスクマネージャー)の役割	リスクを回避する組織的なマネジメント	事故発生時の報告	災害時の対応(電源、酸素など)	医療の質評価										
		57 治療薬の安全な管理について理解する	薬剤の安全な管理と使用	医薬品法	薬剤管理	薬理作用	誤薬予防	薬剤耐性											
	58 感染防止の手順を遵守する	感染予防	感染予防	届出が必要な感染症															
		感染予防技術	インフェクションコントロール	スタンダードプリコーション(標準予防策)			感染予防ガイドライン	感染管理											
	59 関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する	安全な環境を保証するための関係法規及び各種ガイドライン	安全なケア環境に関するガイドライン	安全なケア環境に関する保健所等の監視機関															

IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	P 保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働	60 保健・医療・福祉チームにおける看護及び他職種の機能・役割を理解する	保健・医療・福祉の概念	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉の場に関わる人々															
			活動が展開される場の構成員	病院とその構成員	診療所とその構成員	助産所とその構成員	介護老人保健施設とその構成員	訪問看護ステーションとその構成員	社会福祉施設とその構成員	介護老人関連施設とその構成員	居住サービス事業所とその構成員										
			チーム医療における看護の機能と役割	チーム医療	看護職の機能・役割	チーム医療における他職種の役割	リエゾン精神看護														
		61 対象者を取りまく保健・医療・福祉従事者間の協働の必要性について理解する	協働	看護に関わる人たちの協働	コミュニケーション																
			インタープロフェッショナルワーク	IPW	チームアプローチ																
			62 対象者を取りまくチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行う	チーム医療における報告・連絡・相談	報告・連絡・相談	報告技術	相談技術														
				63 対象者に関するケアについての意思決定は、チームメンバーとともに行う	チームメンバーと共に行う意思決定	チームにおける意思決定のプロセス	チームカンファレンス	共同目標の設定	エンパワメント	リーダーシップ	フォロワーシップ										
64 チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討する	チームメンバーと共に行うケアの質評価	チームにおける評価のプロセス	ケアの質評価																		
IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	Q 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	65 看護を実践する場における組織の機能と役割について理解する	看護実践の場の組織の機能と役割	看護組織の機能と役割	産業保健における組織の機能と役割	医療施設の機能と役割	介護関連施設の機能と役割	地域保健における組織の機能と役割	学校保健における組織の機能と役割	訪問看護における組織の機能と役割											
		66 保健・医療・福祉システムと看護の役割を理解する	保健・医療・福祉システムと看護の役割	ケースマネジメント	保健医療福祉システムと制度	地域医療システムにおける看護の役割	医療機能評価	介護保険における看護の役割	障害者福祉における看護の役割	母子保健における看護の役割	老人保健における看護の役割	精神保健における看護の役割	継続看護における役割								

IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	Q 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割(続き)	67 国際的観点から医療・看護の役割を理解する	国際的観点からの医療・看護の役割	異文化看護	在日外国人の保健医療福祉	グローバルイゼーション	災害医療と看護	地球規模でみた健康問題									
		68 保健・医療・福祉の動向と課題を理解する	保健・医療・福祉の動向と課題	保健医療福祉行政の概要	母子保健と小児医療の動向と課題	老人保健と老人医療の動向と課題	介護保険の動向と課題	精神保健の動向と課題	感染症対策の動向と課題	産業保健の動向と課題	学校保健の動向と課題	社会福祉の動向と課題	生活保護の動向と課題	医療保険の動向と課題	雇用保険の動向と課題		
		69 様々な場における保健医療福祉連携について理解する	様々な場における保健医療福祉連携	地域ネットワーク	保健医療福祉連携・共同	保健医療福祉チーム											
V群 専門職者として研鑽し続ける基本的能力	R 継続的な学習	70 看護実践における自らの課題に取り組むことの重要性を理解する	看護実践者の責務	看護者の倫理綱領	看護業務基準	セルフマネジメント	キャリアマネジメント	看護職としてのアイデンティティの形成	リフレクション	専門職としての看護組織	看護実践者の責務に関するガイドライン						
		71 継続的に自分の能力の維持・向上に努める	生涯学習	キャリア開発	クリニカルラダー	ボランティア活動	認定看護師・専門看護師制度	リフレクション	看護教育体系	学習の資源と活用方法	継続教育・卒後教育	学習理論	卒後研修	生涯学習の方法と形態	自己研鑽		
	S 看護の質の改善に向けた活動	72 看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性を理解する	看護専門職というキャリア	専門職能団体の責務(日本看護協会)	認定看護師	専門看護師	看護の専門性	看護専門職にとってのキャリア	キャリアマネジメント	キャリアビジョンの意義	ワークライフバランス	専門職の特性・基準	看護師の人材確保の促進に関する法律				
73 看護実践に研究成果を活用することの重要性を理解する		エビデンスに基づく看護実践	evidence-based nursing	研究成果の実践への活用方法	文献検索方法	文献活用方法	看護研究の読み方	研究の評価									

表V-2. 看護師に求められる実践能力の「卒業時の到達目標」の達成に「必要な知識の整理」から作成した教育内容

No.	1. 「看護にとって必要な知識」を共通性に従ってまとめる＝どのようなまとまりとして教育すれば良いか。 (以下の番号は、分析結果の「看護にとって必要な知識」が含まれる厚生労働省報告書*における卒業時の到達目標の番号)	2. まとまりに名前をつける。 ＝教育内容	3. 作成した教育内容に、含まれる・関連する「看護にとって必要な知識」があるかを確認して追加する。	4. 教育内容例として「看護にとって必要な知識」と「必要な知識の内容」をまとめて記述する。	5. どのような方法で学ぶのが望ましいか検討する。
1	1. 日常生活行動が可能となる人体の構造と機能	生活者としての人の理解	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	生きる、呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する、生産的な活動をする、身体の清潔を保つ、意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるとい日常生活行動が可能となる人体の機能と構造を理解する。日常生活行動が可能となる人体の機能や構造について、子どもや老人の場合の特徴を理解する。人の成長発達全般および胎児期・新生児期・乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期、死までの身体、心理、社会的な成長・発達、および健康課題を理解する。また集団としての生活者、人を取り巻く文化を理解する。	講義と一部演習（時期を選んで、ひとりの人を身体、心理、社会、文化的側面から理解するレポートを作成するなど） 演習：解剖見学
	2. 成長・発達・死				
	3. 個としての生活者、集団としての生活者、対象者を取り巻く文化				
2	1. の関連（別科目としてより）日常生活行動の障害および日常生活行動の促進を学ぶ	日常生活行動の障害および促進と看護	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助	生きる、呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する、生産的な活動をする（妊娠、出産、育期の生活を含む）、身体の清潔を保つ、意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるとい日常生活行動が障害される症状および障害予防方法、日常生活行動の円滑な促進のための看護援助を、発達段階による特徴も踏まえて理解する。	講義
	50. 看護職の役割と機能	看護職の役割と機能	4. 実践する看護の根拠・目的・方法	看護師（として）の役割と機能・看護専門職、チーム医療における看護職の役割、予防活動における看護の役割、実践する看護の根拠・目的・方法、自らの役割とその範囲、セルフアセスメント、活用できる人的資源、連絡・報告・相談、説明責任と意思決定、コミュニケーションの概念と技法（看護の基本となる定義と概念、看護職の業務と法的基盤、看護職の責任、ジェネラリスト、スペシャリスト、マネージャー、リーダーシップ、マネジメント、看護活動の場、損害賠償保険）	講義 演習：看護師の働く場でシャドウイングの演習をする。また、医療をチームで支えていることを学ぶために施設探索も行う。
50. 看護専門職	4. 説明責任（アカウンタビリティ）と意思決				
50. チーム医療における看護職の役割	4. コミュニケーションの概念と技法				
51. 看護師としての自らの役割と機能	5. 自らの役割とその範囲				
	6. セルフアセスメント				
	6. 活用できる人的資源				
	6. 報告・連絡・相談				
3	51. 看護師としての自らの役割と機能	看護職の役割と機能	27. 予防活動における看護の役割	看護師（として）の役割と機能・看護専門職、チーム医療における看護職の役割、予防活動における看護の役割、実践する看護の根拠・目的・方法、自らの役割とその範囲、セルフアセスメント、活用できる人的資源、連絡・報告・相談、説明責任と意思決定、コミュニケーションの概念と技法（看護の基本となる定義と概念、看護職の業務と法的基盤、看護職の責任、ジェネラリスト、スペシャリスト、マネージャー、リーダーシップ、マネジメント、看護活動の場、損害賠償保険）	講義 演習：看護師の働く場でシャドウイングの演習をする。また、医療をチームで支えていることを学ぶために施設探索も行う。
	12. 他者理解				
	12. ケアリング				
	12. 信頼関係の形成とその方法				
	13. 対人技法				
	13. 援助的コミュニケーション				
	14. 必要な情報の選択とその提供方法				
14. 情報の取り扱い					
4	15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応	援助関係の形成		他者理解、信頼関係の形成とその方法、ケアリング、対人技法と援助的コミュニケーション、必要な情報の選択と取扱い、その提供方法、対象者からの要請・質問に誠実な対応（人間の基本的特質、信頼関係の形成、ケアリング、コミュニケーション）。家族、地域のアセスメント、信頼関係等は含まれる	講義
	12. 他者理解				
	12. ケアリング				

* 厚生労働省（2011）. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.

5	7. プライバシー・個人情報の保護	倫理的な看護実践		臨床倫理、プライバシー・個人情報の保護、他者の尊重、対人関係の尊厳や人権の擁護、組織の倫理規定・行動規範に従った行動、対象情報のマネジメント（必要な情報の選択と取扱い、その提供方法）、対象者からの要請・質問に誠実な対応（臨床倫理とは、インフォームドコンセント、看護情報と守秘義務、対象者の尊厳や人権の擁護、自己決定を支える実践、組織の倫理規定に従った行動、情報のマネジメント）	講義 （実習に倫理カンファを入れる）
	8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条				
	8. 他者の尊重				
	9. 対象者の尊厳や人権の擁護				
	10. 対象者の選択権・自己決定の尊重				
	11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動				
	14. 必要な情報の選択とその提供方法				
	14. 情報の取り扱い				
15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応					
6	4. コミュニケーションの概念と技法	看護とリフレクション	7. プライバシー・個人情報の保護 8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条 8. 他者の尊重 9. 対象者の尊厳や人権の擁護 10. 対象者の選択権・自己決定の尊重 11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動 14. 必要な情報の選択とその提供方法 14. 情報の取り扱い 15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応 50. 看護職の役割と機能 50. 看護専門職 50. チーム医療における看護職の役割 51. 看護師としての自らの役割と機能	リフレクションの概念、リフレクティブサイクル、必須スキル、リフレクションの方法	講義（実習にリフレクションを入れる生涯学習、看護過程にもつながる）
	5. 自らの役割とその範囲				
	6. セルファアセスメント				
7	16. 健康の概念	看護実践の理解		健康の概念、看護理論、看護過程の概要（目的をもった情報収集、情報の整理・分析・解釈、分析・解釈の統合、看護問題の明確化、優先順位の決定、目標の設定、看護計画の立案、エビデンスと個別的な看護計画、看護記録と法的意義、看護記録の活用と具体的方法、評価とその方法、計画の修正）	講義
	16. 情報収集の視点				
	16. 目的を持った情報収集				
	17. 情報の整理分析・解釈				
	17. 分析・解釈の統合				
	17. 看護上の問題（課題）の明確化、優先順位の決定、目標の設定				
	18. 対象者、チームとの協働				
	18. 計画立案				
	19. エビデンスとその活用				
	19. 個別的な看護				
	23. 予測しない状況変化についての観察と判断				
	23. 連絡・報告の必要性とその方法				

7 続き	24. 看護記録と法的意義	看護実践の理解（続き）			
	24. 看護記録の活用と具体的方法				
	25. 看護における評価とその方法				
	26. 計画の修正				
8, 9	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	病態および症状の理解と看護	50. 看護職の役割と機能	病態の理解：加齢性疾患、生活習慣病（がんを含む）、難病、先天性疾患などのなかから代表的な疾患をとり上げる。 症状の理解と看護：生活行動（呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する）が障害された場合の症状をとり上げ、看護を学ぶ。	講義（全ての健康段階に関連する）
	27. 健康生活を支える予防活動		50. 看護専門職		
	27. 予防活動における看護の役割		50. チーム医療における看護職の役割		
	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助				
	32. 身体に急激な変化をもたらす原因				
	32. 身体に急激な変化がもたらされた場合に引き起こされる生体の反応				
	32. 身体に急激な変化がもたらされた対象者に対して必要な治療・看護				
	33. 治療に伴う二次障害を予防するための看護				
	34. 対象者にタイムリーな看護を提供するために必要な看護				
	35. 基本的な救急救命処置				
	36. 状態の変化に伴う症状の変化				
	36. 迅速な報告				
	37. 起こりやすい合併症				
	37. 合併症を予防をしながら生活するための支援方法				
	38. 日常生活の自律/自立に向けた支援方法				
	39. 急激な健康状態の変化にある対象者の心理				
	39. 対象者の心理的支援				
	40. 慢性疾患の特徴・疾患の種類と経過・症状				
	40. 各種の治療法についての知識				
	41. 各種治療法に関する作用と有害事象				
	41. 療養生活の特徴と治療が及ぼす影響				
	42. 障害の受容過程と心理的援助				
	43. 療養生活をおくる対象者の環境調整				
	44. ケースマネジメント				
	44. ソーシャルサポート				
	45. 急性憎悪の予防				
	46. 慢性的な健康障害を有する生活者				
	46. QOL向上の支援				

8,9 続き	47. 終末期	病態および症状の理解と看護 (続き)			
	47. 療養の場選択の自己決定				
	47. 死の受容過程				
	48. 緩和ケア				
	48. 死の徴候				
	49. 看取りをする家族				
	49. 看取りのチーム				
49. 遺族へのグリーフケア					
10	20. 対象者と関わり、反応を捉える方法	看護実践演習Ⅰ：健康な人間の基本的な状態を理解し、正常・異常をアセスメントする、健康の保持増進			<p>基本的な看護援助技術（感染予防・呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）の習得</p> <p>講義と演習 講義では看護技術とは何かを学び、各演習で学ぶ看護援助技術に必要な知識（感染予防、ボディメカニクスなどの共通する知識、方法、エビデンスなど）を理解する。 演習では学生同士で看護師役、患者役となり、以下の各看護技術を行う。 ・フィジカルアセスメントの基礎 ・感染予防技術 ・基本的な看護援助技術（呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）</p>
	21. 安全・安楽・自立				
	22. 呼吸を助ける				
	22. 食べることを助ける				
	22. 排泄を助ける				
	22. 眠ることを助ける				
	22. 移動を助ける				
	22. 身体の清潔を保つ				
	22. 生産的な活動を助ける看護技術				
	22. 意思や感情を表現する／信念を守る／人と関わることを助ける看護技術				
58. 感染予防					
58. 感染予防技術					
11	12. 他者理解	看護の基盤を学ぶ実習			<p>援助的関係の形成、基本的な看護援助技術（呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）の実践</p> <p>実習 基本的な看護援助技術を実践しながら援助関係を形成する。実施した内容はプロセスレコードに記述するなど、リフレクションする。また、臨床現場での実践を通してチーム医療の視点も養う。 日々のカンファレンスを重視し、自己の意見を述べる力、他者の意見をクリティカルに捉える力をつけ、視野を広げる。 看護過程は展開しない。</p>
	12. ケアリング				
	12. 信頼関係の形成とその方法				
	13. 対人技法				
	13. 援助的コミュニケーション				
	14. 必要な情報の選択とその提供方法				
	14. 情報の取り扱い				
	15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応				
	20. 対象者と関わり、反応を捉える方法				
	21. 安全・安楽・自立				
	22. 呼吸を助ける				
	22. 食べることを助ける				
	22. 排泄を助ける				
	22. 眠ることを助ける				
	22. 移動を助ける				
	22. 身体の清潔を保つ				
	22. 生産的な活動を助ける看護技術				
22. 意思や感情を表現する／信念を守る／人と関わることを助ける看護技術					

12	55. 医療安全	安全なケア環境を保証する看護		<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全 (医療事故等の定義・分類、医療事故の構造、患者の安全、医療提供者の安全、安全文化、ノンテクニカルスキル、ヒューマンファクター、システムファクター、エラーからの学習、チーム連携) ・安全な環境での療養生活の保証 (対象のリスク特性、安全な環境を保証する方法、療養棟環境の整備と行動制限) ・リスクマネジメント (情報管理、安全管理責任者・リスクマネジャーの役割、リスクを回避する組織的なマネジメント、事故発生時の報告、災害時の対応、医療の質評価) ・安全な環境を保証するための関係法規及び各種ガイドライン (安全なケア環境に関するガイドライン、安全なケア環境に関する保健所等の監視機関) 	講義
	55. 安全な環境での療養生活の保証				
	56. 安全を脅かすリスク				
	56. リスクマネジメント・セーフティマネージメント				
	59. 安全な環境を保証するための関係法規及び各種ガイドライン				
13	66. 保健・医療・福祉システムと看護の役割	保健・医療・福祉システムの理解		保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解するために、保健・医療・福祉の動向と課題およびそれらのシステムを理解する。	講義
	69. 様々な場における保健医療福祉連携				
14	さまざまな項目の知識の内容に含まれたため	看護に役立つ理論		なぜ理論が必要か、セルフケア、ストレスコーピング、危機モデル、不安、ICF、パーソンセンタードケア、リカバリー、ストレングスモデル、健康行動理論など	講義
15	4. 実践する看護の根拠・目的・方法	保健・医療・福祉チームの理解		チーム医療における看護職の役割、看護チーム、他職種、IPW（連携・協働） 産業保健、医療施設、介護関連施設、地域保健、学校保健、訪問看護における組織の機能とそこでの看護の役割、他職種との連携・協力を理解する。	講義 演習：委譲や連携していく時に、どのように相手に接近し、伝えるかを演習で学ぶ。学内の他職種の教員を交えたグループワーク、ロールプレイ、事例検討などを行う。
	4. 説明責任（アカウンタビリティ）と意思決定				
	4. コミュニケーションの概念と技法				
	5. 自らの役割とその範囲				
	6. セルフアセスメント				
	6. 活用できる人的資源				
	6. 報告・連絡・相談				
	7. プライバシー・個人情報の保護				
	8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条				
	8. 他者の尊重				
	9. 対象者の尊厳や人権の擁護				
	10. 対象者の選択権・自己決定の尊重				
	11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動				
	12. 他者理解				
12. ケアリング					
12. 信頼関係の形成とその方法					
13. 対人技法					
13. 援助的コミュニケーション					
14. 必要な情報の選択とその提供方法					